



看護管理室
地域医療サービスセンター副センター長兼
看護師長兼急性期ケア推進室
高橋 敏枝

謹んで新年のお慶び申し上げます。

昨年は診療報酬の改定に伴い、退院支援システムの改定や新たに退院支援部門と病棟が協働して退院支援カンファレンスを開催しました。今年はさらに病棟と連携を図りながら入院した患者様が退院後も安心して地域で生活が行えるように



中央手術室看護師長兼
中央滅菌室長
藤原 妙子

退院支援での関わりを深めていきたいと思っています。また、地域に戻られた患者様のご自宅や施設などに訪問することでお問い合わせください」と思っています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



中央手術室看護師長兼
中央滅菌室長
藤原 妙子

入院から継続した支援が提供できるようになります。また、地域に戻られた患者様のご自宅や施設などに訪問することでお問い合わせください」と思っています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



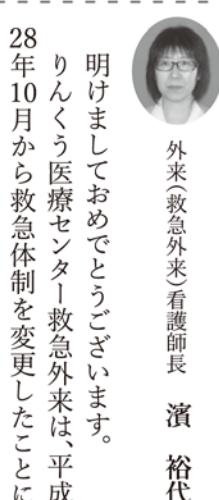
放射線科看護師長
則村 正文

新年明けましておめでとうございます。

中央放射線部では、CT、MRI、angioplasty、テレビ、内視鏡、R-I 検査や、放射線治療など様々な検査や治療を行っています。

予定の検査、治療が滞りなく、また、緊急の検査や治療が迅速に受け入れることができます。

患者様の医療過程により良い医療を提供すべく、スタッフ一同努めています。本年もよろしくお願ひします。



外来(救急外来)看護師長
濱 裕代

明けましておめでとうございます。

りんくう医療センター救急外来は、平成28年10月から救急体制を変更したことにより、休日・夜間の受け入れが70%台より90%台となり、救急診療が必要な方の診療がより多くできるようになりました。安心して医療を受けられる救急外来を目指し、スタッフ一同努力します。



外来(入退院サポートセンター)
看護師長
渡邊 久代

新年あけましておめでとうございます。

入退院サポートセンター、及び病床管理師長を担いはや2年目が過ぎようとしています。

昨年の一文字は「金」でしたが入退院サポートセンターでは「つなぐ」の3文字でした。入院決定時から退院後の生活を見据えた支援活動、病棟カンファレンス参加などを通して患者様の視点で考えることに重点を置き看護の質の向上につとめています。

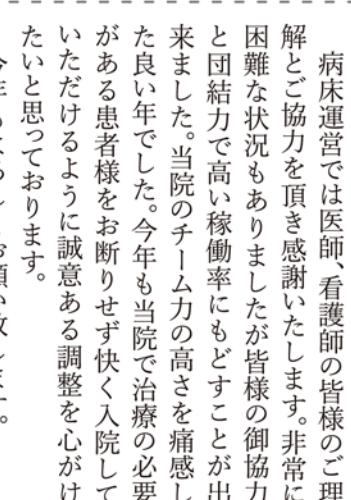
また、手術を受ける患者様が最良の状態で手術にのぞんでいただけるよう、周術期管理を医師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士や地域歯科医院の先生達正利用にご協力のほどよろしくお願い致します。



また、手術を受ける患者様が最良の状態で手術にのぞんでいただけるよう、周術期管理を医師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士や地域歯科医院の先生達正利用にご協力のほどよろしくお願い致します。

方と連携し、実践できるよう準備を進めています。導入時は限られた診療科の患者様を対象とし、徐々に拡張していくよう計画しています。周術期管理センター開設の際には、私達の活用とご支援をよろしくお願い申しあげます。

お願い申しあげます。計画していきます。周術期管理センター開設の際には、私達の活用とご支援をよろしくお願い申しあげます。



今年もよろしくお願い致します。

病床運営では医師、看護師の皆様のご理解とご協力を頂き感謝いたします。非常に困難な状況もありましたが皆様の御協力と団結力で高い稼働率にもどすことが出来ました。当院のチーム力の高さを痛感した良い年でした。今年も当院で治療の必要がある患者様をお断りせず快く入院していただけるように誠意ある調整を心がけています。

今年もよろしくお願い致します。



5階海側病棟看護師長
上野 智美

明けましておめでとうございます。

新年あけましておめでとうございます。5階海側病棟は、緊急入院・退院と目まぐるしく患者様が入れ替わっていく中、スタッフ一人一人は役割意識を持ち、自己研鑽に努めています。また、昨年当病棟では、チーミングリーダーが中心となり様々な改革を行い、業務改善や看護の質の向上に取り組み、現在も変化し続いている病棟です。看護の質の向上を目指すスタッフ皆の前向きで直向きな努力には頭が下がります。「前向きなチームはやはり成果をだす」と言われています。本年も病棟一丸となって何事にも全力で取り組み、看護の提供ができる病棟を目指します。



ICU/CCT看護師長
急性期ケア推進室室長
川島 孝太

昨年はパートナーシップナーシング(PNS)の定着に力を入れた1年となりました。PNSの強みの一つに教育効果が挙げられます。若手看護師を中心へ、中堅看護師をベテランへといった階段式の教育

計画を基盤にPNSを実施したことにより、一人ひとりが看護師としての自覚や自信・責任感が生まれ、リーダーシップにつながる行動変容も見られるようになりました。集中治療室での看護には、看護師の迅速な判断や予測などが求められます。スタッフの育成は非常に重要となります。言葉にしにくいものは背中をみせつつ、そして知識・理論もしっかりと言葉で伝え、「よりよいクリティカルケア看護」を行う部署になるよう奮闘していきました。

